

Press release 2026.10.02

保団連関東ブロック 合同調査 中東情勢による医療機関への影響

【医療機関における石油製品の在庫・供給・価格等 緊急調査結果報告】

中東情勢の混乱は石油製品の原料であるナフサの供給懸念に始まり、医療材料の不足や価格高騰を引き起こしています。このことにより、医療機関を取り巻く環境はより厳しさを増し、持続的な地域医療の提供が危ぶまれています。

保団連関東ブロック協議会では、医療機関で使用する石油製品の在庫・供給状況や価格高騰の実態調査を実施しました。以下、調査結果を報告いたします。



〈本件に関するお問い合わせ先〉

保団連関東ブロック協議会

茨城県保険医協会：029-823-7930

埼玉県保険医協会：048-824-7130

東京歯科保険医協会：03-3205-2999

栃木県保険医協会：028-666-7814

千葉県保険医協会：043-248-1617

神奈川県保険医協会：045-313-2111

群馬県保険医協会：027-220-1125

東京保険医協会：03-5339-3601

山梨県保険医協会：055-227-5434

モノ不足・価格高騰は長期化 医療機関経営を圧迫 ～医療の維持に支援が必要～

- 保団連関東ブロックに所属する2,183医療機関から回答を集約。
- 医療材料に関して「在庫状況」の不足が続いており、特に『グローブ』、『注射器』に関しては、約3割の医療機関が在庫不足と回答。
- 業者等からの「供給状況」に関しても「在庫状況」同様、『グローブ』や『注射器』に関して安定的な供給が行われていない状況が続いており、約半数の医療機関が供給不安定と回答。
- 中東情勢による医療機関への影響は、モノ不足から価格高騰へ。『グローブ』においては約8割の医療機関が価格高騰を経験。その多くが、3割程度までの価格上昇。医療分野は公定価格であるため、“コストが増加しても値段を上げる”ことは出来ない。医療機関の持ち出しが増加し、経営はより厳しい状況に。
- 地域医療提供体制に影響が及ばないよう、医療機関への支援は必須。

【調査方法】

<実施方法>

保団連関東ブロック〔茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京(医)・東京(歯)・神奈川・山梨〕会員医療機関にFAXで調査票を送付。

※調査票はFAX・-googleフォームで回収

<調査期間>

調査期間:2026年7月27日(月)~8月10日(月)

<回答率>

◇調査票送付件数:23,230件 回答数:2,183件(回答率9.4%)

◇回答率

	調査票送付数	回答数	回答率
茨城	1,514	177	11.7%
栃木	764	76	9.9%
群馬	977	129	13.2%
埼玉	3,284	333	10.1%
千葉	3,794	367	9.7%
東京(医)	4,689	385	8.2%
東京(歯)	2,726	155	5.7%
神奈川	5,219	529	10.1%
山梨	263	32	12.2%
合計	23,230	2,183	9.4%

中東情勢の医療機関への影響調査

..... 保団連関東ブロックで取り組む

現場の声を集め、医療を守り、いのちを支える活動へ



【調査結果】

設問1:回答医療機関・施設類型(全体)

医科診療所	歯科診療所	病院	施設累計未回答
61.5% (1,342/2,183)	28.5% (622/2,183)	3.7% (81/2,183)	6.3% (138/2,183)

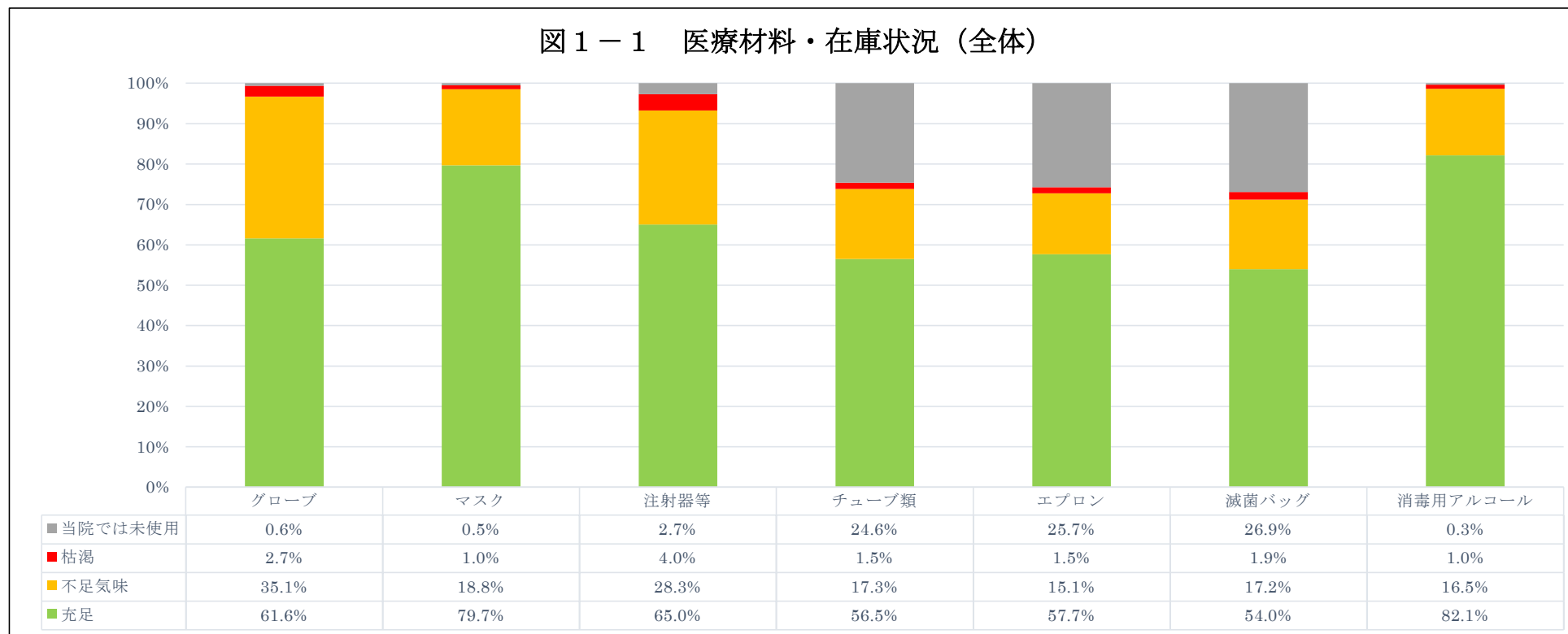
◇回答医療機関・施設類型(各県別)

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京(医)	東京(歯)	神奈川	山梨
医科診療所	73.4%	65.8%	38.0%	53.5%	55.9%	92.2%	0.0%	66.7%	62.5%
歯科診療所	18.1%	25.0%	51.9%	27.6%	31.3%	0.0%	91.0%	28.7%	18.8%
病院	7.9%	3.9%	6.2%	3.6%	4.4%	3.1%	1.3%	2.5%	3.1%
未回答	0.6%	5.3%	3.9%	15.3%	8.4%	4.7%	7.7%	2.1%	15.6%

※上記の施設類型中、「医科診療所」は有床診療所を含む

設問2:各製品の在庫状況(全体)

図1-1 医療材料・在庫状況(全体)



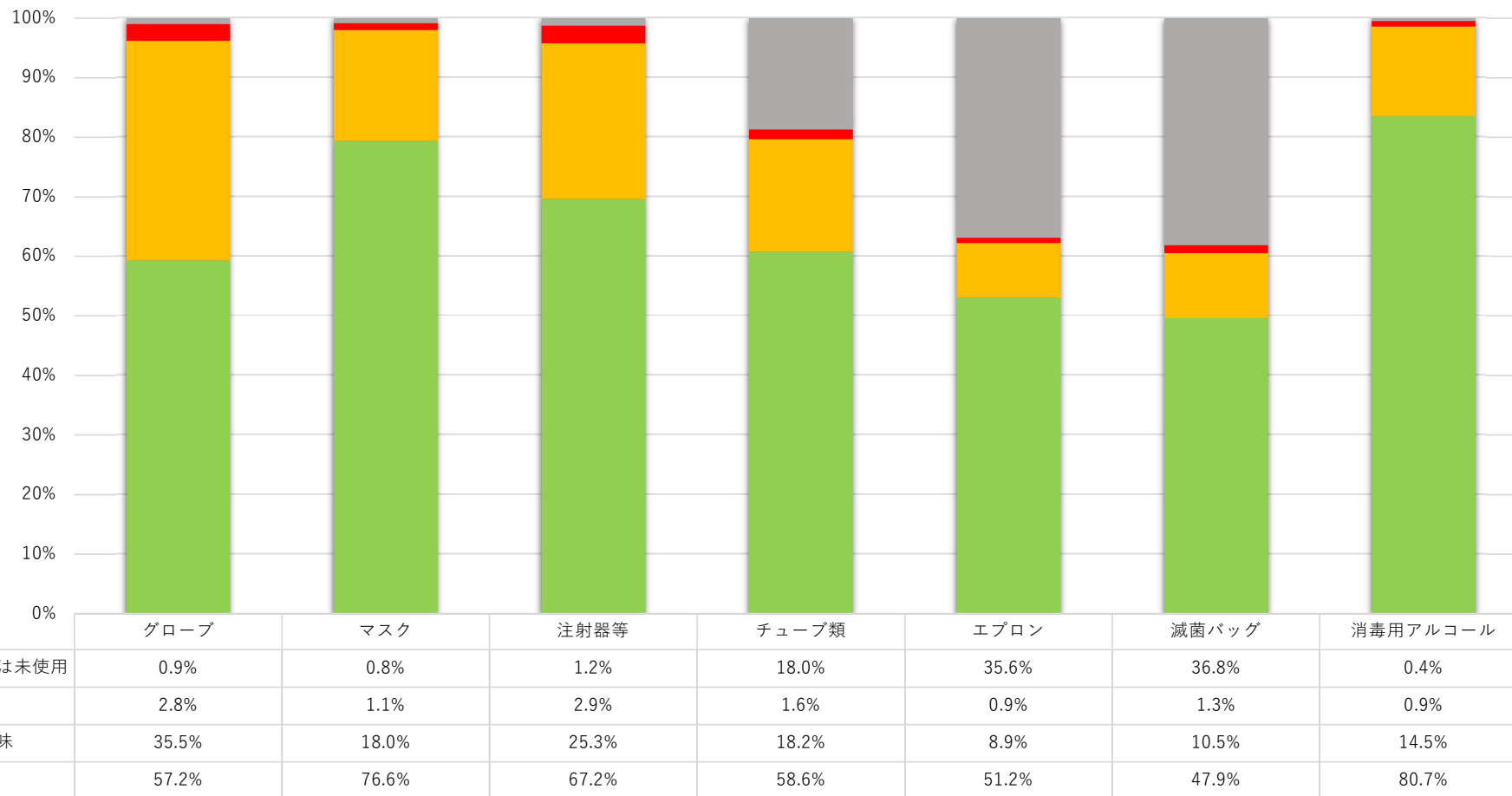
・図1-1は医療材料の在庫状況を示している。本調査では7つの医療材料を取り上げているが、全ての医療材料において一部医療機関で在庫不足が今も続いている状況。中でも、「グローブ」、「注射器等」は不足割合が他の医療材料よりも高く、『不足気味』、『枯渇』と回答した割合が3割を超えている。

図1-2から図1-4では、在庫状況を施設類型(医科診療所・歯科診療所・病院)ごとに示したが、歯科診療所では「注射器等」・「エプロン」・「滅菌バッグ」において、他の施設類型と比較して、不足割合がより高い傾向が出ている。

病院においては、他の施設類型と比較した時、全体的に医療材料充足の傾向が示されている。このことは、診療所と比べ在庫確保スペースが十分に設けられており、その十分なスペースに、非常時に対する備えがとられているものと考えられる。一方、診療所では、在庫確保スペースが限られるため、物理的に対策をとることができないケースが多いと想定される。

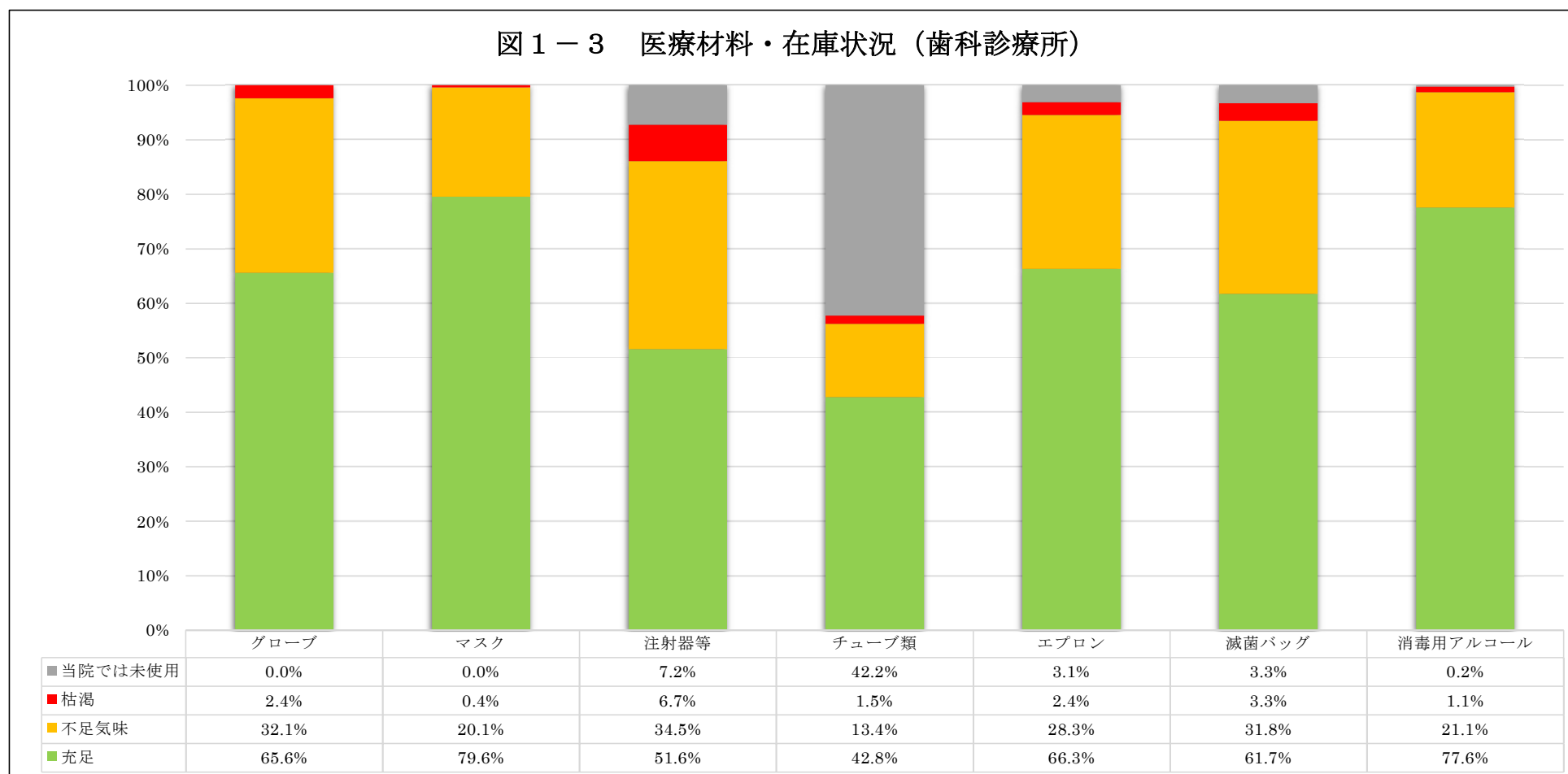
設問2:各製品の在庫状況(医科診療所 ※有床診療所含む)

図1－2 医療材料・在庫状況（医科診療所）



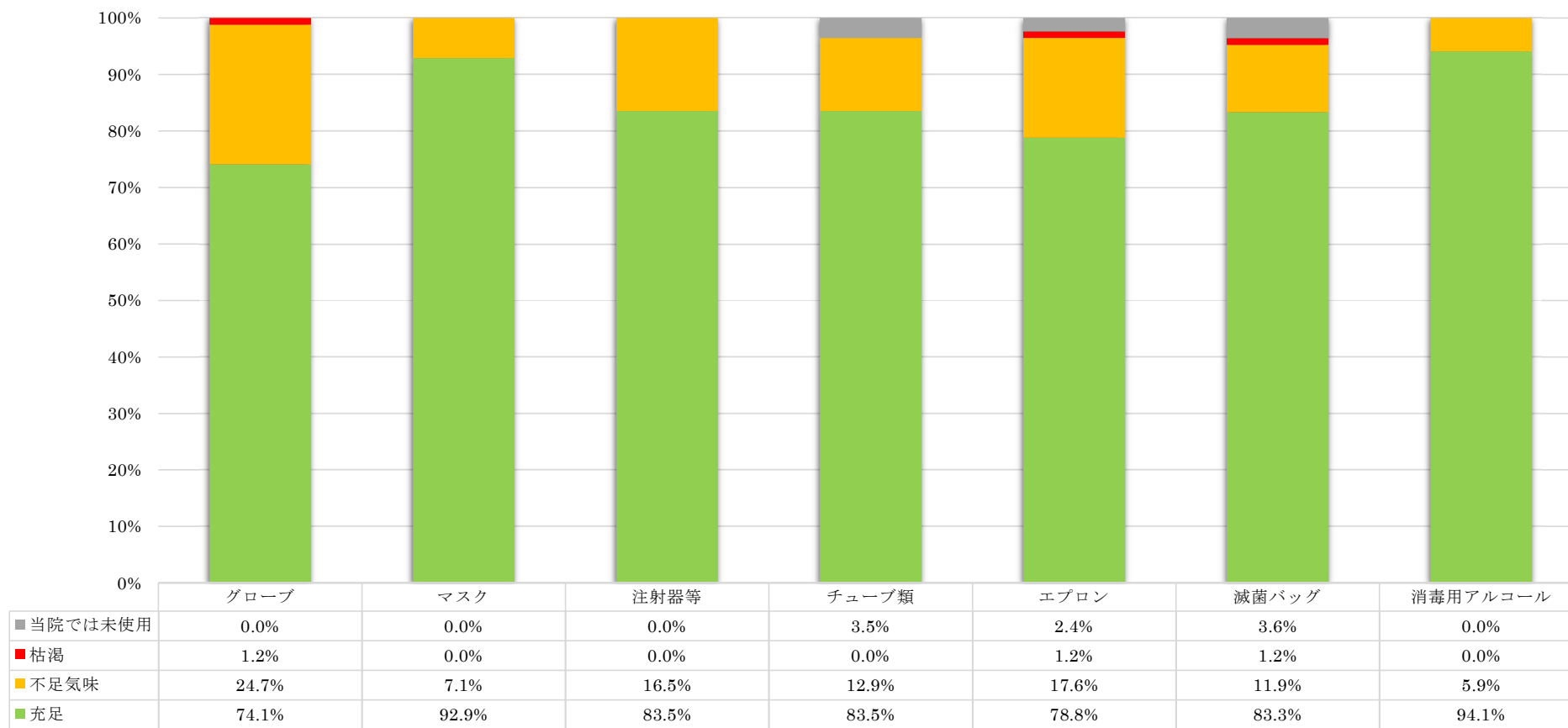
設問2:各製品の在庫状況(歯科診療所)

図1－3 医療材料・在庫状況（歯科診療所）



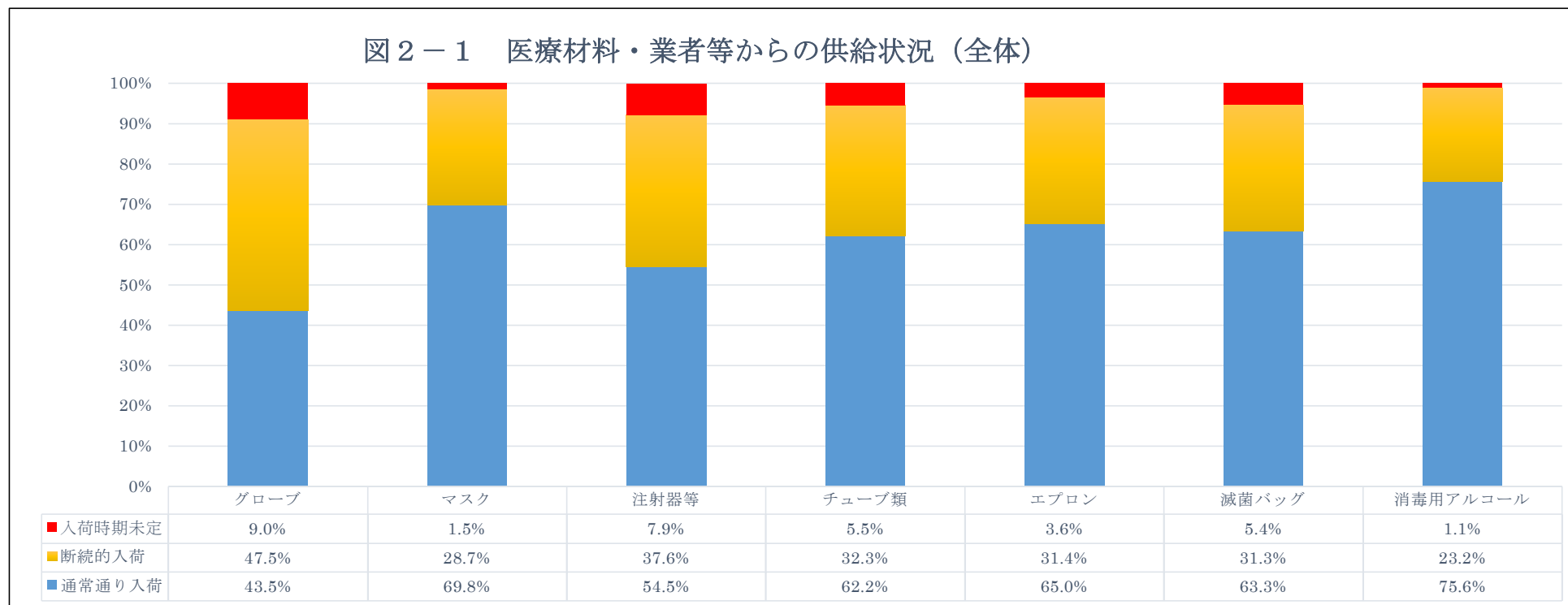
設問2:各製品の在庫状況(病院)

図 1 - 4 医療材料・在庫状況 (病院)



設問3:各製品の供給状況(全体)

図2-1 医療材料・業者等からの供給状況(全体)



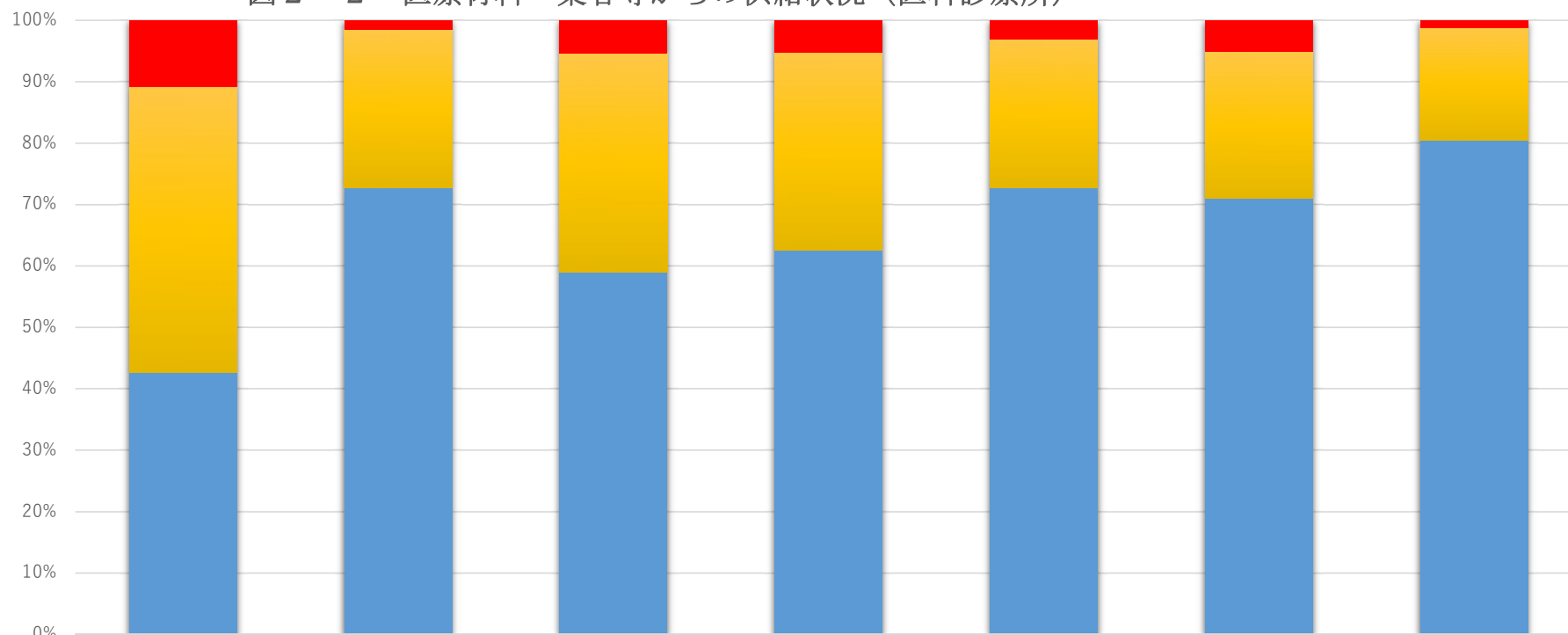
・図2-1は医療材料における業者等からの供給状況を示している。入荷に支障をきたす状況が未だ続いている中で、『断続的入荷』と『入荷時期未定』の合計値において、「グローブ」はその割合が56.5%と特に高く、また「注射器等」でもその割合が45.5%となっており、今春以降、医療材料の安定供給されていない状況が持続している。

図2-2から図2-4では、供給状況を施設類型(医科診療所・歯科診療所・有床診療所・病院)ごとに示しているが、全ての施設類型においてグローブの入荷に大きな影響が出ている。比較的グローブの在庫状況が緩和されている「病院」であっても、供給状況において何らかの影響を受けている病院が41.7%であった。グローブの国家備蓄放出が行われている中でも、多くの医療機関でグローブ供給困難となる状況が続いており、地域医療への影響が懸念される。

その他、「歯科医療機関」においては、在庫状況同様、『注射器等』『エプロン』『滅菌バッグ』の入荷にも影響が出ており、処置や治療等への影響が懸念される。

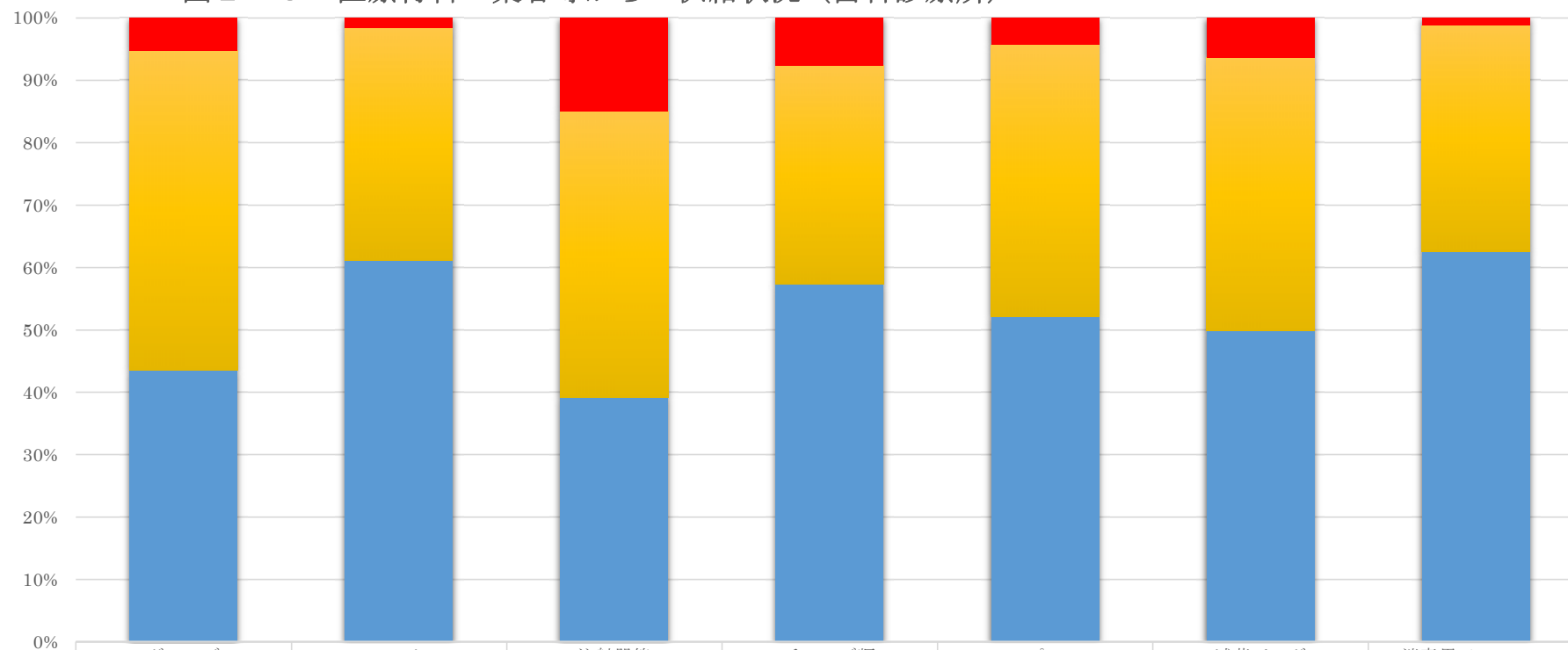
設問3:各製品の供給状況(医科診療所※有床診療所含む)

図 2 - 2 医療材料・業者等からの供給状況 (医科診療所)



設問3:各製品の供給状況(歯科診療所)

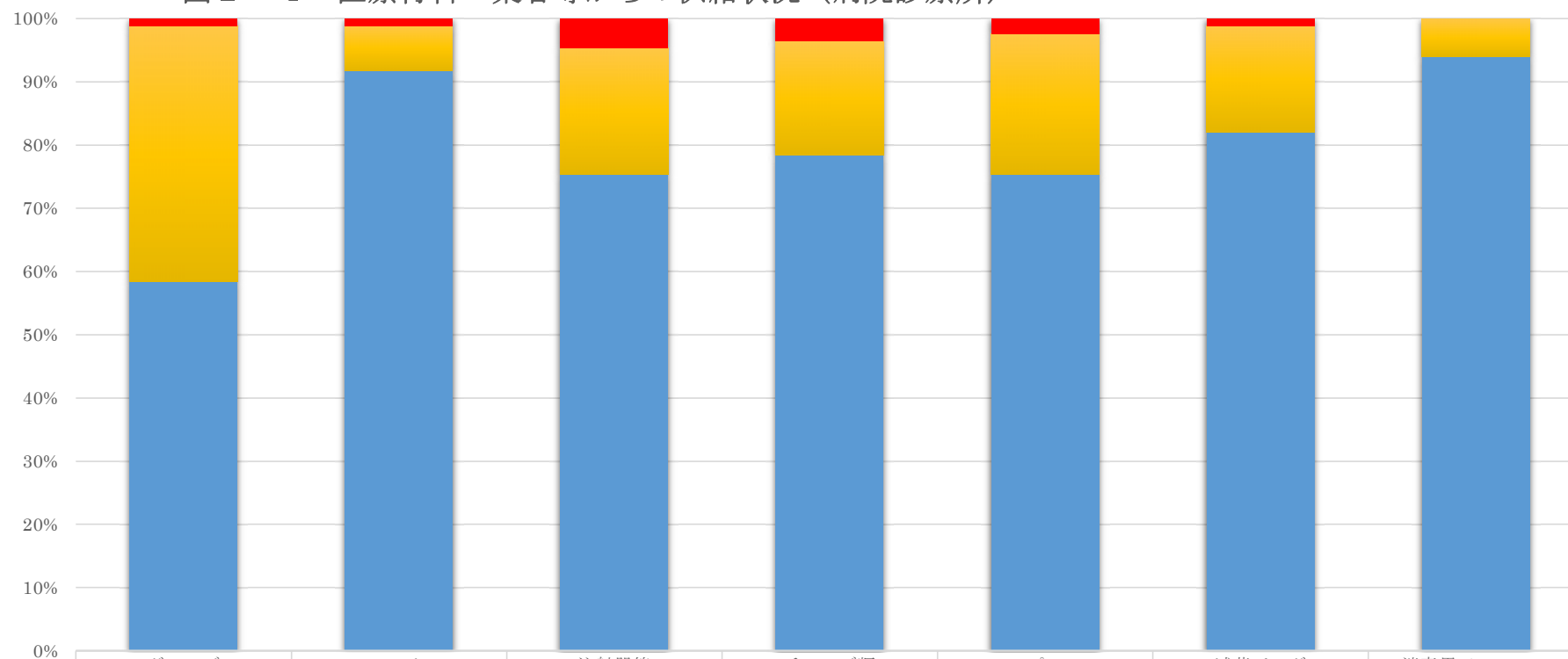
図2-3 医療材料・業者等からの供給状況(歯科診療所)



	グローブ	マスク	注射器等	チューブ類	エプロン	滅菌バッグ	消毒用アルコール
■ 入荷時期未定	5.3%	1.6%	14.9%	7.7%	4.3%	6.3%	1.3%
■ 断続的入荷	51.3%	37.3%	45.9%	35.0%	43.5%	43.8%	36.1%
■ 通常通り入荷	43.5%	61.1%	39.2%	57.3%	52.2%	49.8%	62.6%

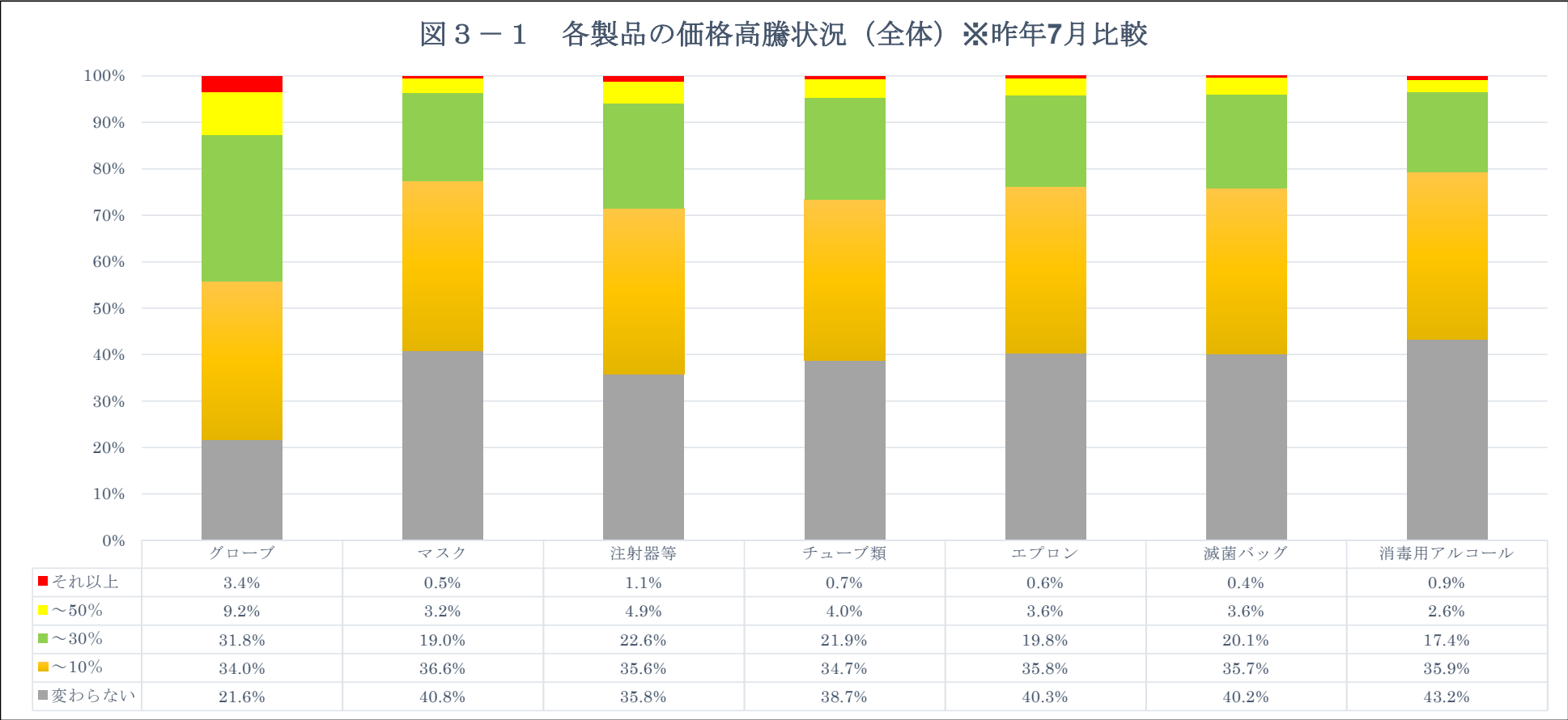
設問3:各製品の供給状況(病院)

図 2 - 4 医療材料・業者等からの供給状況（病院診療所）



	グローブ	マスク	注射器等	チューブ類	エプロン	滅菌バッグ	消毒用アルコール
入荷時期未定	1.2%	1.2%	4.7%	3.6%	2.5%	1.3%	0.0%
断続的入荷	40.5%	7.1%	20.0%	18.1%	22.2%	16.7%	6.1%
通常通り入荷	58.3%	91.8%	75.3%	78.3%	75.3%	82.1%	93.9%

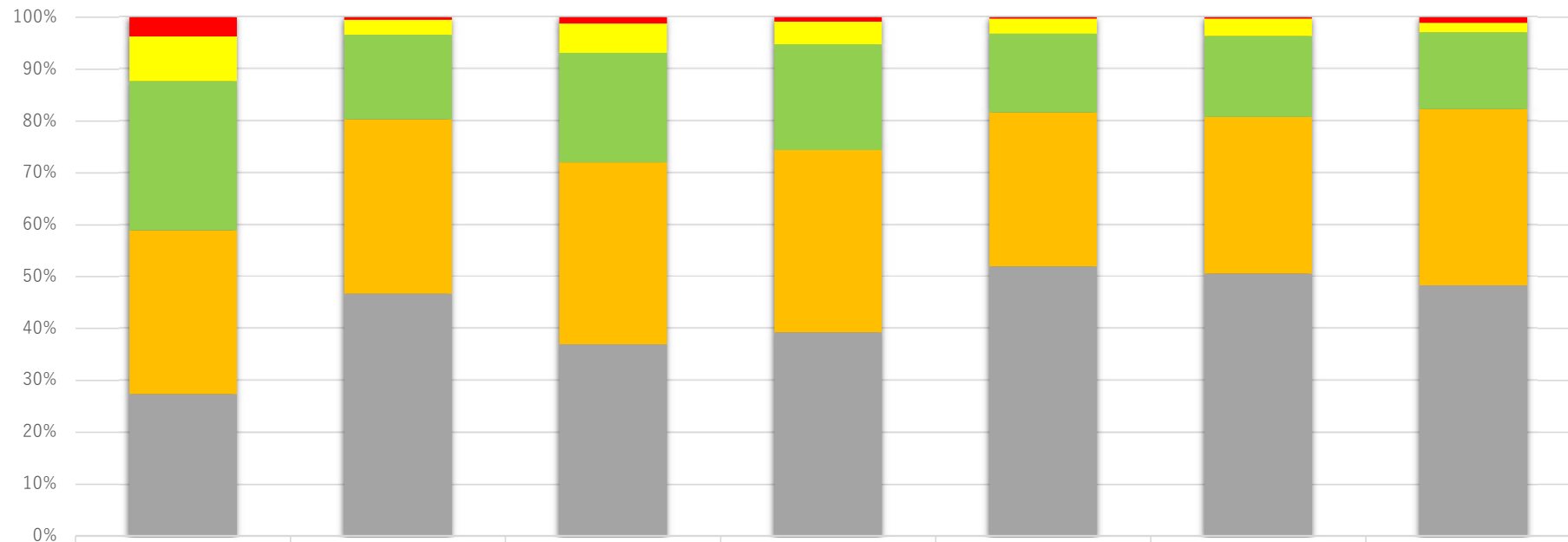
設問4:各製品の価格高騰状況(全体)



・図3-1は医療材料における価格高騰の状況を示している。調査を行った2026年7月下旬～8月上旬と1年前の価格を比較。比較した全ての材料において、約5割の医療機関が10～30％程度の価格高騰と回答。価格が高騰したと回答する医療機関の割合は「グローブ」で特に高く78.4％と約8割の医療機関で価格高騰を経験している（※歯科医療機関では約9割で価格高騰との回答があった）。各種医療材料の価格高騰は厳しさを増している医療機関運営に追い打ちをかけるものである。医療機関は公定価格のため、価格高騰の影響に関して、一銭たりとも価格転嫁することはできない。早急な対応が望まれる。

設問4:各製品の価格高騰状況(医科診療所※有床診療所含む)

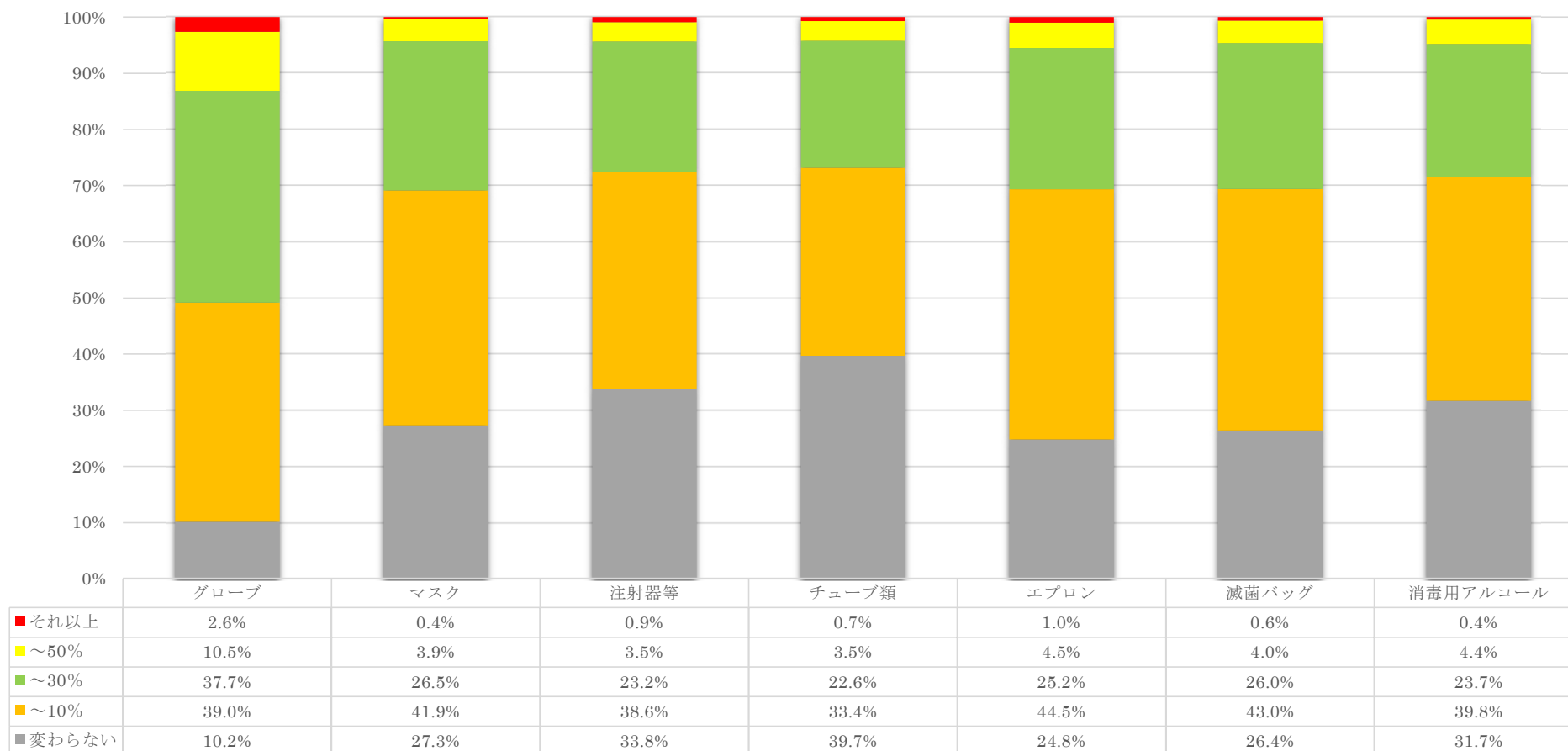
図3-2 各製品の価格高騰状況(医科診療所) ※昨年7月比較



	グローブ	マスク	注射器等	チューブ類	エプロン	滅菌バッグ	消毒用アルコール
■ それ以上	3.6%	0.5%	1.1%	0.8%	0.3%	0.3%	1.0%
■ ~50%	8.3%	2.8%	5.5%	4.2%	2.7%	3.1%	1.7%
■ ~30%	27.7%	15.7%	20.3%	19.6%	14.4%	14.8%	14.3%
■ ~10%	30.4%	32.5%	33.9%	33.8%	28.2%	28.6%	32.8%
■ 変わらない	26.3%	45.1%	35.7%	37.7%	49.3%	47.9%	46.6%

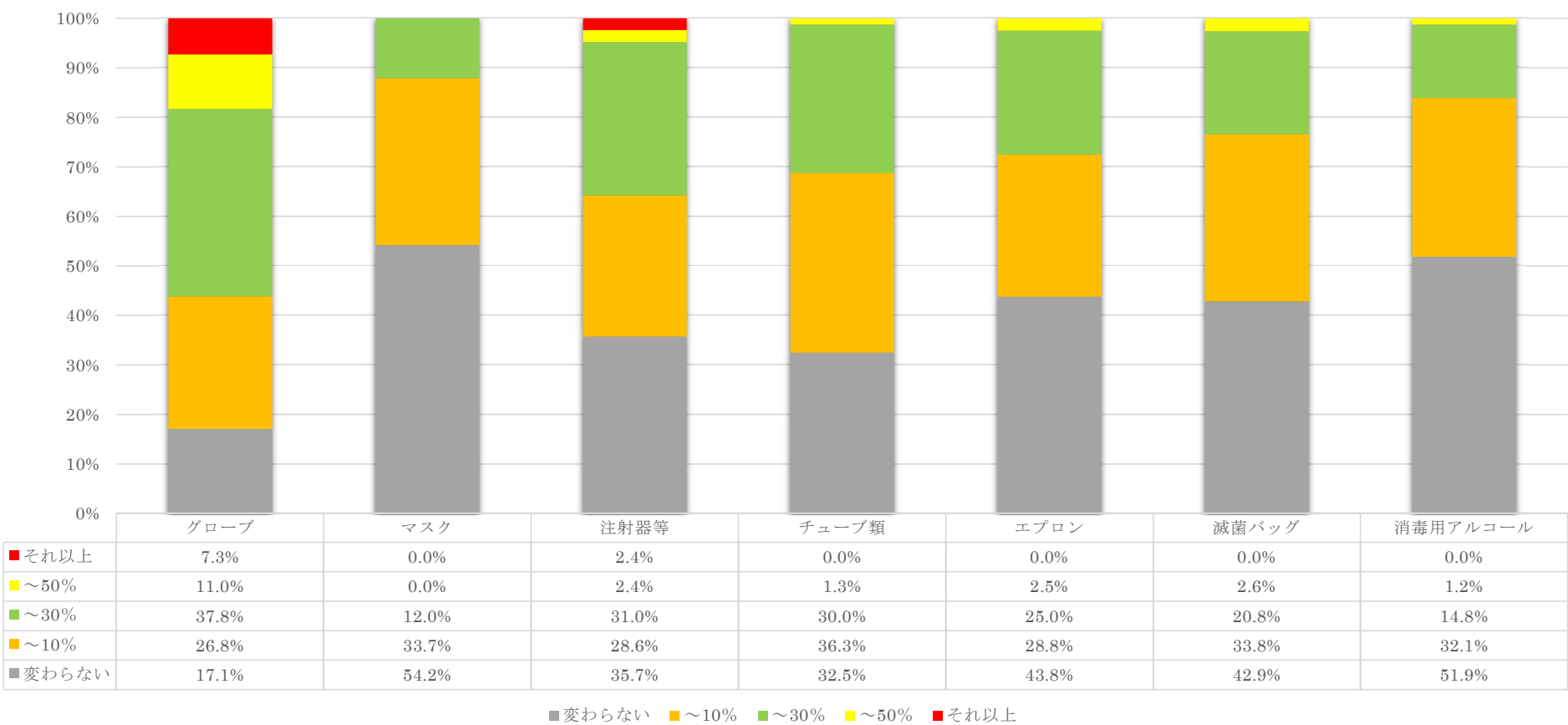
設問4:各製品の価格高騰状況(歯科診療所)

図3-3 各製品の価格高騰状況(歯科診療所) ※昨年7月比較



設問4:各製品の価格高騰状況(病院)

図 3 - 4 各製品の価格高騰状況（病院）※昨年7月比較



設問5:設問2～4に掲げた製品以外に、不足または高騰した製品

※回答件数の多い製品を掲載

製品名	件数
歯科用麻酔・局所麻酔	147
薬剤(抗菌薬・注射薬含む)	118
注射針・翼状針・針	101
軟膏壺	46
ビニール袋・ゴミ袋	33
歯磨き粉	27
紙コップ	21
ガーゼ	20

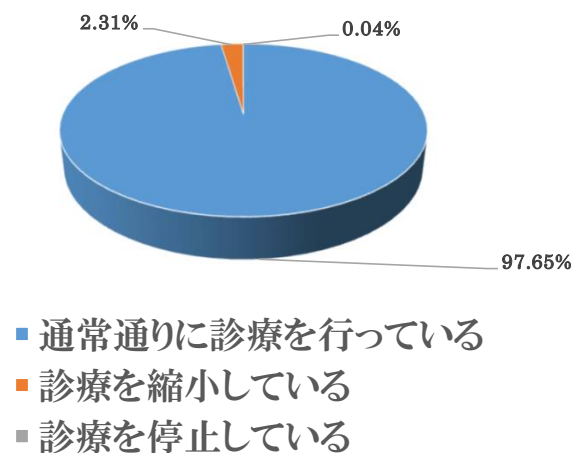
・中東情勢の影響ではないが、昨年、メーカーの製造トラブルにより出荷制限等が行われた歯科用麻酔・局所麻酔においては、現在も不足が続いている。

その他、薬剤や注射針においても不足しているといった回答が多数寄せられた。

設問6:石油製品の在庫・供給不足による影響

図4. 石油製品の在庫・供給不足による診療への影響

※N=2082



・図4では医療材料の在庫・供給不足による診療の影響を確認しているが、既に一部の医療機関で診療を縮小する事態となっている。多くの医療機関では診療を継続できているが、上記の調査結果からも、現状の状況が長引けば、日常診療に影響を及ぼす医療機関の増加は免れないと考えられる。

今後も定点での状況確認が必要であるとともに、早急で効果的な支援策が求められる。

設問7:中東情勢の影響による医療現場の実情、国の医療用手袋備蓄放出、今次改定の物価対応等に対する意見

【医療材料等の不足】

- ・グローブなどは日頃から多めに買っていたため、入荷までもちこたえることができたが、在庫置場が診療スペースを圧迫したり、入荷遅延、途絶商品の対応で時間が圧迫されている。中東情勢よりも前から注射薬液や抗生物質の購入制限も引き続いているため、管理に疲弊している。
- ・小規模診療所ではバックヤードも狭く、在庫をたくさん置くことはできない。在庫が切れそうになれば補充するが、市場で物品が枯渇すればお手上げです。大手病院のように、大量ストックは無理です。
- ・手袋やマスクなど、コロナの時に無くて大変だったものは備蓄しておいた物があったため、今回は影響が小さくて済んだのかもしれない。しかし、日用品(ビニール袋など)は盲点で、入荷が止まった時は病棟に協力してもらい、使用方法を変えてもらったりした。
- ・滅菌バッグやゴミ袋は発注困難なので2～3の業社で金額などをみて何とか発注できている。手袋も何とか在庫を確保しているが、発注困難時は在庫が不足しないか心配。
- ・滅菌グローブが入らなくなり大変困った。方々に問い合わせで手術用に確保した。未滅菌のものにはさほど困らなかった。
- ・ディスポ手袋等に関しては充足しているが、滅菌手袋の入荷が無い為、処理等工夫をしながら対応している。
- ・SSサイズの手袋が入手困難。

- 国の備蓄を放出したところで、地方の個人医院には届きません。業者も大手には持って行くが、小さい医院だとなかなか難しい。潰れる。
- Amazonや楽天他ECサイトで、とても状態の悪いグローブを買って対応していたが最悪だった。
- 手袋備蓄放出前後にグローブは入手可能になった。業界の「メズマリ」解消の意味はあったかも？
- 現在翼状針が買えず困っている。医薬品は入手困難で処方内容を変えなければならないし、患者様に影響が出ている。
- 軟膏壺が手に入らない。
- 軟膏の容器、分包紙の不足は直接患者様に関わるもの(処方)なので、入荷未定と言われると不安になる。小児科の処方もある為、メーカーに常に情報提供をお願いしている。
- 調剤薬局にて容器(シロップ)(軟膏)が不足し困った。今は回復している。
- 内服を一包化希望される方(今まで一包化で指示していた方)で、どうしても必要な方以外は一包化を外すように薬局から依頼が来た。包装紙が不足していると聞いた。
- 注射器1ccのものが入荷しない。
- これからインフルエンザワクチン接種が始まるが、テルモ1mlシリンジ(予防接種用)が製造中止になり大変困っている。
- シリンジに充填されたヘパリンが全く準備できず、病院→在宅への移行に支障が生じた。患者様も不安になってしまい、体調も悪く再入院となった。

- 膀胱ろうの方に使う尿管カテーテルが前医から指定されたものを準備できなかった。
- 発熱外来を継続しています。ガウンが枯渇しています。支給品も届かない状態です。
- 診療が続けられるよう代替品にしてみたり、グローブなどは細かい作業ではない時は、安価なサイズの合わない物を使用し節約している。
- 常時「充足」とは言えない。納品の遅延は時々あるが診療に支障をきたすことはない。
- 業者からの情報を参考に早めに手配し、なんとかやりくりしている。
- 今のところ、どうにか足りているが、あと3ヶ月くらいか。
- 3月～5月、グローブ・マスク・アルコールやごみ袋、全然手に入らない時期があり、かなり困った時期が続いた。
- グローブ(ニトリル)や翼状針が入荷未定となり、通常より1～2ヶ月の遅延が生じた。7月以降はガムテープの発注も不可となり、近隣のドラッグストアで購入している。やはり、流通の停滞は医療者にとって大きな不安。
- 毎週在庫状況を確認し、不足しそうなものは早めに発注依頼。注射針、手袋については待っていても納品されないことも多く、その都度、卸の担当者へ電話し、ようやく手配して頂いているのが現状。
- 1ヶ月程前は枯渇して全く手袋が入ってこなかったが、少しずつ入荷してきている。
- 2か月程前に入荷遅れあり。物品が不足すると困るため多めに購入してストック。現在は通常通り入荷。

- グローブ、マスク、注射器、エプロン、滅菌バッグは購入先を変更して対応。
- どこかで買い占めでもあるようで、問題があるようだと言屋さんより伺うことがある。
- 急に全ての商品が入荷未定になり、初動時に、通販サイトでまとめて購入した。
- 通販は戦争が始まると止まるが、当院は40年以上付き合いのある大手なので何とかしてくれる。
- ディスプレイ製品の不足は医療従事者だけでなく、患者さんにも影響が出る。
- 麻酔薬の不足は診療に大きな支障をきたす。
- 麻酔がないと抜歯や外科処置が出来ないので、抜歯は基幹病院へ紹介。
- 浸麻(シタネストなど)がなかなか流通していないので困っている。
- 浸潤麻酔液の不足。薬の入荷が難しく、院外処方にきりかえている。タクシー移動になるので、年寄りには負担が大きい。
- 浸麻用のカートリッジがかなり不足している。
- ナフサ関連ではないが浸麻薬が不足している。
- 中東の影響というよりマスコミ(特にTV)があおりすぎたことが原因による不足だったと思う。出入りの歯科業者は「生産は通常通り行われており、注文殺到による一時的な不足なので、6～7月位には落ち着くはずです…」と当初から言っていたが、その通りだった。メーカーや卸業者の値上げや在庫処分に利用された感じがする。

【医療材料等の価格高騰】

- 不安から、値が高いと思うものでも材料屋が持ってきてくれるものは受け入れてしまう。元の値には戻らないだろう。
- 今まで購入していた物品の品切れで、他で同商品を購入すると価格が高くなる。
- 手に入らないので、今までとメーカーの違う高い商品を購入しなければならなくなった。
- 通常使用している物品が品薄で手に入らず、高価格帯（値段は度外視した）のものでも購入した。石油危機と言われてすぐの2026年4月から買いだめをした（物品がないと診療が成り立たないため）。その為、物品代は例年より相当かかっていると思われる。
- 時折、出荷調整で入荷してこない時がある。物価が高騰してきている。
- グローブに関しては、4割以上値上げがされて医療提供者側の負担となっている。グローブ・マスク・アルコールに関しては、出来る範囲での節約をするなどの対応が必要となり、質の低下にもつながっているように感じた。
- シリンジが一部入荷未定、2倍の値段になっている。
- 診療に欠かせない消耗品の価格高騰、入手困難による代替品の確保が大変。
- 昨年より、以前からの物価上昇による消耗品の経費上昇により、医院の負担が増えている。
- 中東情勢の影響による物価高騰の収束の目途が立っていないため、院内で使用している物品の価格が上がり続けていることに不安を覚えている。

- 価格高騰が今後も続くことで、診療を今まで通り継続することが困難になるのではという不安を感じています。
- 注文の制限、価格上昇の改善を早期に求めます。
- 小さなクリニックでは大量購入しないので、価格を抑えて少しずつ購入できる体制を続けて頂きたい。
- 医療現場として在庫を十分に備蓄したいところだが、価格高騰に伴い購入数を抑えている。物価高による支援の見直しなどを要請したい。
- 物価は明らかに高騰している。消費税を減税もしくは廃止して頂けたら、かなり楽になるのですが・・・。

【国の医療用手袋・備蓄放出】

- 国からの手袋等の放出はありがたく思う。
- 材料が手に入らない時の備蓄放出は助かる(1回利用)。
- G-MIS=アスクルを通じて実施されたようですが、自分達で業者に手配し対応した。
- 国からの手袋(グローブ)はアスクルで購入とのことで、結局、価格は高かった。
- 国の医療用手袋は使用感が悪い。伸縮しない。
- 国の手袋備蓄分は劣化のためゴムが伸びずにすぐ破けてしまうため困っている。残念。
- 国の医療用手袋は、実際現場で使用するには掃除用や検尿用としか使用できない。採血用手袋があればよいと思う。
- 国の医療用手袋備蓄放出時、注文依頼したが在庫切れで購入出来なかった。
- アスクルを使った国備蓄物資放出スキーム、登録はしたがアスクルからの購入手続きのメールが届かない。(承認はされている)どうなっているのか？
- 備蓄放出品(グローブ)を申請しているが2カ月経ってもまだ連絡が来ない。申請の仕方が複雑。
- 届出をしても、結局、国の手袋は連絡すら来なかったのであきらめた。高いグローブを買うはめに。

- 医療用手袋備蓄放出はアスクルとの手続き手順に時間を要する。大変。グローブは特に値上がり額が高く経営的に負担が大きい。
- グローブの備蓄放出は最初利用したが、1度のみ。手続きが面倒なので、2度目は利用するか悩む。マイナ対応(PCの買い換え)も併せて、診療以外のことでの対応が大変。
- G-MISの入力が大変(手袋放出のための)。
- G-MIS等の手続きが面倒。電子申請ばかりですね。
- 国の備蓄品の放出の時、有料とされたのがびっくりした。
- 国の備蓄放出分は当院がいつも入荷しているところより値が高いのは納得できない！当院は3月までかなり備蓄を増やしていたので不足が深刻ではないだけです。
- 国のグローブ放出がアスクルを通して行われているが、かなり割高である。
- 購入ではなく、配布にしていきたい。
- 国の物品支給は、基本200床以上の病院を優先していて、町の診療所には届かないのが現実。国だけではなく、市の方での支援をお願いしたい(診療所限定で)。

【今次改定の物価対応】

- 物価上昇に追いついていない。
- 物価高に国の診療報酬対応では追いつかない印象。
- 物価対応の診療報酬がついた事ありがたいが、とても足りない。物品もだが、会社のメンテナンスや保守料、検査用の試液などの値上がりの方が著明。
- 今次改定の物価対応について、物価は高騰するのに、診療報酬(点数)は減少する一方。
- 今次診療報酬改定による物価対応では不十分。
- 物価対応は有難いが、現実の物価上昇には追いついていない。
- グローブが高騰する等、今次改定の物価対応では、全く足りない。
- 診療報酬が改定されても、医療資材の不足や値上げで、全く追いつかない。
- 全ての材料が値上がりしていて、それに伴って歯科点数が上がるわけではないので、経営的にどんどん厳しくなる。
- 出費が増えるのに、改定が全く追いついてない。
- 物価対応(加算?)経営負担の足しにもならず、あらゆる物品、薬も値上げが多い。値上げに対し(消費税も↑)反映されるものがゼロに等しい。

- 現時点では物価高の影響を何とか吸収できるものの、今後については不透明。診療報酬単価も物価連動になるように検討していただきたい。
- 診療報酬の物価対応相当の引き上げ、および消費税分の追加付与を図っていただかないと利益圧迫が止まらない。
- マイナカード関連に始まり、オン資など結果的に全て義務化。現場での負担は増えているが、診療報酬は物価に追い付かず。施設基準や手続きなど書類関係が増えるばかり。消耗品の在庫を増やすための原資がない。災害や紛争等があった場合、全くお手上げとなる。
- 本来ならば物価対応料で補填するのではなく、基本診療料等でプラス改定しなければ、物品だけでなく、電気代などのインフラにも料金上昇あり、赤字になりかねない。
- ディスプレイ製品の価格高騰、光熱費の高騰に保険点数が追いついていない。ハンドソープ、ラップ類、トイレットペーパーやティッシュといった紙製品も価格が高騰している。
- 燃油価格上昇により製品価格のみならず輸送コストも値上げとなっており、診療報酬のみでカバーすることは難しくなっている。
- 中東情勢以前に物価高騰や数十年続く低い低診療報酬で疲弊している。
- 物価等上がっているため、点数が低いままの状態が続くほど苦しくなります。国の備蓄放出も大変助かりますが、これ以上何かがあった時に不安に思う。
- 地域医療を維持し、安全で質の高い医療を継続的に提供するためには、物価やエネルギー価格の変動に応じた機動的な診療報酬の見直しや公定価格制度の下で医療機関が持続可能な経営を行えるようにさらなる支援策を講じることが必要だと考える。

- 国の補助金や助成金は有難いが、申請に時間をとられる。その場しのぎであって、医薬品の高騰は止まらず、出荷停止等、供給不安の連鎖が続いている。臨時的な対応・取り扱いが増すばかりで改善されていると思えない。国が目指している医療とは何か教えて頂きたい。
- 円安、物価高騰、人件費高騰など社会情勢に対して現在の保険制度は柔軟に対応出来ていません。身銭を切って、医療を維持している状況です。国や自治体は、医療者の慈愛・奉仕の精神に頼ること無く、制度設計をしていただきたいです。
- 今次改定の物価対応については、医療保険制度そのものが崩壊している（高度経済成長期にできたシステムが、今も変わらずありつづけていることがおかしい）。

【医療機関運営】

- こんな混乱が続くなら、年齢を考えて閉院を考えている。
- 物品の高騰による経営収益の悪化が心配。
- 今のところまだ大丈夫だが、年単位で物資不足と物価高が続くと、診療所運営が難しくなると思う。
- 円安もあると思うが、概ね3割価格上昇。人件費も高騰し、診療報酬も上がらない。儲かるわけがない。もう誰もやりたいと思う医師はいなくなるだろう。
- 現在は大きく不足しているものはありませんが、今後、いつ何がどれぐらい不足してくるか予測がたちません。価格の高騰は、クリニックの運営に影響し、患者にも負担がかかってくると考え心配。
- 人件費、歯科材料の高騰が続けば立ち行かなくなる。現在も保険診療では利益がでない。義歯の技工料が高騰、新製はほぼ赤字。
- 価格高騰が今後も続くことで、診療を今まで通り継続することが困難になるのではという不安を感じている。
- 物品の価格、人件費の値上がりで現在の診療報酬ではクリニックの継続は難しい。
- 物価はどんどん上昇していくが、患者から頂く分は変わらない為、経営はどんどん苦しくなっている。患者を減らせば収入は減る。現状維持だとしても収入としては減るので悪循環。どうすれば良いのでしょうか。

以上